

# 県小中学教研会報

発行 石川県小中学校教育研究会  
金沢市尾山町10番5号  
石川県文教会館内  
電話(076)262-4916

編集 石川県小中学校教育研究会  
広報部

印刷 株式会社 山 越



第3回研究大会 郡市町教育研究会協議会（県地場産業振興センター）

より広く・より高く



石川県小中学校教育研究会

副会長 寺本 弓子

石川県小中学校教育研究会は、今年度四年目を迎え、八月には第三回研究大会を開催することができました。石川県教育委員会、石川県市町教育長会をはじめ関係機関の皆様のお力添えに深く感謝申し上げます。

同月、中央教育審議会教育課程企画特別部会より発表された学習指導要領改訂に向けての論点整理において、今後求められる授業づくりや学校づくりについて具体的な方向性が打ち出されました。本会もその具現化の一端を担うものとしての自覚のもと、活動のさらなる質的向上をめざし柔軟な見直しを行うべき時に来ているように思われます。

第三回研究大会事後アンケートでは参加者の皆様から多くの貴重なご意見・ご感想をいただき、それをもとに役員会・理事会・代議員会それぞれにおいて大会を振り返りました。

大会午前の部では、郡市町教育研究会協議会として、まず二研究会より活動報告をいただき、その後グループに分かれての意見交流会を行いました。今後、県内十六の各郡市町の学校教育研究会代表者が一同に会する希

少な機会をより生かすべく、テーマを絞る等して、限られた時間の中で論点をより明確にした意見交流や情報交換ができるような工夫が求められます。

また、午後の教科等別研究協議会については、特に若手の実践発表の場として有意義であった、興味深い実践内容で大いに刺激を受けたとのご感想が多くあった一方で、分科会によっては、せつかくの充実した発表がその後活発な協議につながらなかったのが残念という声、また、時間の配分上、発表は二本が適当ではないか（今年度は三本）とのご意見もいただきました。真摯に受け止め、次年度につなげていきたいと思えます。

なお、各種教科等研究会の大会開催地のローテーションについては、各研究会のご協力により、このたび向こう十五周年にわたる具体的な見通しが立ちました。石川県の子どもたちのため、本会活動のキーワードともなっている「オール石川」で、さらなる指導力の向上をめざすとともに、石川の授業研究文化を着実に次代へと引き継いでいきたいと思います。

より広く、より高く。

## 《研究会紹介》

### 「羽咋郡学校教育研究会の今、そして、これから」 羽咋郡学校教育研究会

羽咋郡は、羽咋市を挟んで、北は志賀町が、南は宝達志水町がそれぞれ離れて位置し、歴史的に、一時間以上のかかりの移動時間を要する中で、授業実践等、交流を図っている経緯がある。

羽咋郡学校教育研究会は、志賀町の小学校八校と中学校二校、また、宝達志水町小学校五校と中学校一校、二百四十二人の会員で構成され、各会員の会費と志賀町及び宝達志水町、両町の教育委員会からの助成金によって運営されている。

道徳を含め、十三の教科等部会と七つの特別部会から成り、教科等部会は、一人一部会ですべて全員加入としている。また、特別部会は各校一定の会員数の参加で活動している。各部の部長は校長及び教頭が務めている。

羽咋郡の教育研究会は、各町のそれぞれの町教育研究会の組織及び独自性のもと、成り立っている研究会でもある。志賀町教研では、作家、加能作次郎氏を仰ぎ、加能作文が行われており、宝達志水町教研では、運営委員会に、体育、外国語、生徒



指導の三つの運営委員会を組織し、その内容及び運営に重点を置いて活動していることが、その独自性の表れである。

また、今まで教科部会が、研究授業等それぞれに企画運営していた経緯があるものの、今から約五年前、六月及び十一月の指定日を設定し、全会員が一堂に交流する「統一研修日」を設けたことが大きな進展となっている。六月は部長の町で、十一月は副部長の町で開催され、授業力の向上を図っている。

さらに、羽咋郡内では、今年度は四校が道徳の研究発表の指定校となり、本郡の小中学校の教育の振興を図ることに活躍していることも大きな特徴となっている。

しかしながら、平成二十八年度、羽咋郡の志賀町の学校統合が進められ、志賀町では、七校の小学校が一校に統合され、町

全体で、小学校が二校になってしまふ。それに伴って、会員数も羽咋郡全体でも、約五十名の減少が余儀なくされてしまうことになる。羽咋郡教育研究のあり方そのものが問われる状況になっていくことが大きな課題である。

今年度、郡教研の今後の進め方に関して、郡校長会研修会において、その運営方法、予算の作成等も含めて、様々な内容を協議してきた。会員数の減少による影響は避けることはできないものの、研修会の運営方法等、より工夫した方法を検討しているのも現状である。教科によつては、他都市と連携するののも一つの方法である。

児童生徒の質的向上及び指導力向上のために、今後も模索し続けていきたいと考えている。  
(文責 宝達志水町立相見小学校 池島 正芳)

### 鹿島郡学校教育研究会

鹿島郡学校教育研究会は、中能登中学校、鳥屋小学校、鹿西小学校、そして、今年度統合して誕生したばかりの鹿島小学校の四校の教職員百名で構成されています。

- 本会では、郡内の学校教育の振興発展を図ることを目的に、
- ① 小中学校の教育課程の研究
  - ② 各種研究会、講習会の開催
  - ③ 教科等研究部会、専門研究部

会の活性化と会員相互の意思疎通

④ 児童生徒を対象とする文化活動、体育活動の推進

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事柄について研究実践

という努力目標を設定し、活動しています。

特に、小中合同で「教科等研究部会」と「専門研究部会」の二部会に分かれて研修会を持ち、小中で連携をとりながら研修を進めています。

「教科等研究部会」では、研究授業と協議による研修会など、年四回の研修会を小中合同で行い、小中の授業内容、指導法について相互理解を深めることにしています。今年度もそれぞれの教科等で小中合同の研究授業が行われました。

音楽研究部会では、会員数は中学校一名、小学校四名と少数ですが、中能登教育事務所の指



音楽科2年生「鑑賞」の研究授業の様子

導主事を要請し、ご助言いただき研究授業を行いました。研究授業は、当該小学校の先生方にも参観していただき、整理会では、本時の授業だけではなく、中学校に向けての系統性を考えた指導について話し合いがなされました。その後、「音楽科指導のポイント」という内容で指導主事による研修会も行いました。また、町音楽会や科学フェスティバル、鹿島郡児童生徒の文集「鹿島の友」編集等の文化的活動、水泳交歓会や器械運動交歓会等の体育的活動を教科等研究部会、専門研究部会が運営しています。そうすることで、各校の取り組みの共通性が高まり、町としての一貫性や一体感が生まれ、より高い質の教育へと繋げるようにしています。

今年度は、会員全体の講演会を、文部科学省学力調査官・教育課程調査官の小松信哉氏をお招きし、実施することができました。「今、何が大切なのか。何をしなければいけないのか。」等、とても充実した学びができました。

学校の統合により会員数が減少していくなかでも、様々な機関と連携しながら、郡内の学校教育の振興発展のために、今後とも努力を惜しまず研鑽していきたいと考えています。

(文責 中能登町立鹿島小学校 澤 祐紀恵)

石川県社会科教育研究会

本研究会は昭和四十六年（一九七一年）に、石川県としてのまとまりのある社会科教育の研究組織が待望される中、県下二四〇名の会員数で発足した。その後毎年研究大会を開催し、半世紀近くになつて石川県の社会科教育を牽引してきている。現在は奥能登地区から南加賀地区まで全県下三〇〇名を越える会員数となっている。

北陸三県社会科教育協議会（北三社研）に加盟し、富山県・福井県との連携も進めている。また、全国小学校社会科教育研究会（全小社研）、全国中学校社会科教育研究会（全中社研）にも加盟し、これまで全小社研は三回、全中社研は二回の研究大会を県内で開催してきた。平成の時代に入り、全県の各地区で順次研究大会が開催されるようになった。十年ほど前からは高等学校も研究大会に参加し公開授業を行っており、校種を越えた研究協議が行われ、小中高の社会科教員が集まる貴重な情報交換の場となっている。

今年度は、第四十五回研究大会が小松で開催された。大会主題「自ら社会に参画する力の基礎を養う社会科学習～自分発社会経由 自分行～」のもと、符津小学校と芦城中学校において公開授業が行われた。例年講

師を招いての講演会を実施してきたが、授業研究を重視する観点から授業整理会を充実させることとした。夏休みには小中学校の有志の先生方が集まり指導案検討会もここ数年開催されて



各地区における研究大会の開催は、開催地区の先生方の授業力向上と組織力強化そして、子どもたちの社会科学習への意欲の高まりに着実につながっている。また、小中一貫教育や中高一貫教育の取組が進む今日、校種を越えた研究活動の重要性はますます高まっております。今後も本研究会において校種間の交流をさらに進めていきたいと考えている。

（文責） 金沢市立港中学校 越中 修

石川県学校道徳教育研究会

今回の学習指導要領の一部改正では、特に道徳の指導法の改善について具体的に触れられている。資料分析を綿密にして、

子どもの意識・思考を中心に据えて授業を構成しても、実際の授業では、子ども達の反応が十分でなかったり、ねらいに迫るための中心発問が難しかったり、価値を押しつけてしまったりと、授業者の悩みは尽きない。これらの悩みは、ある意味で実践を積み重ねることで解決されると考えている。本研究会では、各

教育事務所管内で公開授業研究会を毎年開催し、研究授業と授業整理会、指導主事を招聘しての指導講話等により、教師の授業力を向上させる取組を実施している。教師と子ども達が人間としてのより良い生き方を求め、共に考え、話し合う授業を目指したいと考えている。

また、平成二十七年十一月六日（金）には、中部地区小学校道徳教育研究大会 石川大会が、輪島市立鳳至小学校において、中部各地から三百名を超える参加をいただき開催された。

本研究会では、子どもの心に響き、心の力を育む道徳の授業改善の視点として、豊かな体験活動との関連や人や地域との豊かなかかわり合いにより、子ども達が自己の生き方について考えを深めることができるよう、授業改善を図ってきた。

会場校では、各学年一学級、全十二学級において授業が公開された。公開授業では、ふるさと教材の活用や豊かな体験活動

との関連、人と地域との豊かなかかわり合いにより、子ども達が自己の生き方について考えを深められるよう授業改善を図り、その成果が発信された。

課題別分科会では、「自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の工夫」「全教育活動の要として補充・深化・統合する道徳の時間の工夫」「家庭や地域社会との連携を生かした道徳教育の推進」の三つのテーマに分かれて、実践事例報告を基に多くの意見が交わされた。永田繁雄先生による記念講演では、特別の教科としての道徳授業とこれからの学校教育について示唆に富むお話をいただいた。

来年度には、全日本中学校道徳教育研究大会が初めて本県で開催される。道徳教育の不易の部分に基づ盤としながら、学習指導要領がなぜ、どう変わったのかを十分理解した上で、道徳教育の一層の充実に努めていきたい。

（文責） 小松市立御幸中学校 石田 恵一



平成二十七年役員

- 会長 川原 弘明(金沢・西小)
副会長 寺本 弓子(兼沢・泉中)
総務部長 勝田 敬子(金沢・材木町小)
研究部長 山形 正喜(金沢・兼六中)
研究副部長 貝田由美子(加賀・河南小)
調整部長 濱田 利幸(野々市・富陽小)
調整副部長 谷口 徹(能美・根上中)
広報部長 能波 裕司(兼沢・額中)
広報副部長 澤 祐紀恵(鹿島・鹿島小)
会計部長 吉木 充弘(珠洲・緑丘中)
会計監査 大句わか子(鳳珠・小木中)
米倉 敏広(金沢・鳴和中)

平成二十七年年度会務報告

- 四月四日(土) 三役会
四月十五日(水) 第一回理事研修会
五月十二日(火) 第一回幹事研修会
五月二十八日(木) 第二回理事研修会
六月五日(金) 第二回幹事研修会
六月十一日(木) 第一回代議員研修会
七月二十四日(金) 第三回理事研修会
七月二十四日(金) 第三回幹事研修会
八月十一日(火) 第三回研究大会
十月十四日(水) 第四回理事研修会
十月二十二日(水) 第二回代議員研修会
十二月二十八日(月) 第五回理事研修会
二月九日(火) 第三回代議員研修会
二月十八日(木) 第六回理事研修会

平成二十八年年度県内開催予定の研究発表会

全国大会

- ◆全日本中学校道徳教育研究大会
- ・能美市立辰口中学校
- ・県地場産業振興センター
- ・十月二十七日(木)・二十八日(金)

東海北陸地区大会

- ◆特別支援教育研究大会
- ・金沢市文化ホール
- ・県文教会館・金沢商工会議所
- ・七月二十八日(木)・二十九日(金)

中部ブロック大会

- ◆養護教育研究大会
- ・金沢市
- ・八月十八日(木)・十九日(金)

県大会

- ◆県国語教育研究会
- ・白山市立朝日小学校
- ・白山市立鶴来中学校
- ・十月

- ◆石川国語の会
- ・金沢市内小学校
- ・十二月十日(土)
- ◆県書写教育研究会
- ・輪島市立河原田小学校
- ・六月

- ◆県社会科教育研究会
- ・七尾市
- ・十月二十一日(金)
- ◆県小学校社会科教育研究会
- ・金沢市内小学校
- ・十二月三日(土)

- ◆県中学校数学教育研究会
- ・十月
- ◆県中学校道徳教育研究会
- ・全国大会と兼ねる
- ◆県小学校生活科・総合的な学

開催予定なし

- ◆県算数教育研究会
- ・金沢市立浅野町小学校
- ・十月中旬

- ◆県理科教育研究協議会
- ・輪島市立河井小学校
- ・輪島市立輪島中学校
- ・県立輪島高等学校
- ・十月十四日(金)

- ◆県音楽教育研究会
- ・七尾市サンビーム日和ヶ丘
- ・十一月二十二日(火)
- ◆県図工・美術教育研究会
- ・加賀市アビオシティ加賀
- ・加賀市立小学校・中学校
- ・十一月二十五日(金)

- ◆県学校体育研究会
- ・能美市学習センター
- ・能美市立浜小学校
- ・能美市立根上中学校
- ・十一月十七日(木)
- ◆県小学校体育研究会
- ・金沢市
- ・十二月二十六日(月)

- ◆県小学校家庭科教育研究会
- ・金沢市立中央小学校
- ・十二月一日(木)
- ◆県中学校技術・家庭科研究会
- ・金沢市立高岡中学校
- ・十月十三日(木)

- ◆県中学校英語教育研究会
- ・金沢市
- ・十月頃
- ◆県学校道徳教育研究会
- ・全国大会と兼ねる
- ◆県小学校生活科・総合的な学

- ◆県小学校生活科・総合的な学
- ・習教育研究協議会
- ・加賀市立錦城東小学校
- ・十月二十八日(金)
- ◆県特別活動教育研究会
- ・七尾市
- ・三学期
- ◆県中学校視聴覚教育研究協議会
- ・津幡町立つばた幼稚園
- ・かほく市立高松小学校
- ・かほく市立宇ノ気中学校
- ・県立内灘高等学校
- ・十一月十七日(木)
- ◆県学校図書協議会
- ・加賀市立河南小学校
- ・加賀市文化会館
- ・十一月十一日(金)
- ◆県養護教育研究会
- ・金沢市
- ・八月一日(月)・二日(火)
- ◆県公立小中学校教育事務研究会
- ・穴水町のとふれあい文化センター
- ・八月二十五日(木)・二十六日(金)

午前(十時)

- ・郡市町教育研究会協議会
- ・各郡市町教育研究会代表による今年度の活動方針の協議、情報交換等
- 午後(十三時)
- ・開会式
- ・記念講演
- 講師 鳴門教育大学大学院 村川 雅弘教授
- 演題「未定」(カリキュラム・マネジメントについて)
- ・分科会
- ①金沢市小教理科部会
- 知識基盤社会の時代を切り開く人間を育てる理科教育
- ②県小学校家庭科教育研究会
- 豊かな生活を創り出す子をめざして
- ③県図工・美術教育研究会
- 一人一人が輝く造形活動
- ④県学校体育研究会
- 豊かな心とすこやかな身体を育てる学校体育を求めて
- ⑤東 由紀教諭
- (志賀町立富来小学校)
- 音楽にあふれた学校をつくる
- ⑥竹本 優紀教諭
- (白山市立千代野小学校)
- 子どもが創る生活科
- ⑦守田 弘道教諭
- (白山市立北星中学校)
- 技術・家庭科における思考力・判断力・表現力育成のための「読む・聞く」「書く・話す」を取り入れた学習活動
- ⑧能美市教育研究会
- 「未定」

編集後記

今回は、各郡市町の教育研究会や各教科等研究会の活動状況などを四つの団体から報告していただきました。どの研究団体も、本研究会のテーマである「石川の授業研究文化の継承と発展」に取り組んでいることがうかがえる内容です。他の研究団体も参考にしてください。各研究団体が授業実践を積み重ね、指導力向上に寄与できるよう取り組んでいければと願っています。

また、平成二十八年年度の研究発表会等の予定も掲載いたしましたので、各研究発表会が盛会になりますよう、ご協力いただければ幸いです。

最後に、第八号発刊にあたり、たくさんの方のご協力やご支援をいただき、誠にありがとうございました。

(広報部 能波 裕司)

広報部

- 部長 能波 裕司(金沢・額中)
- 副部長 澤 祐紀恵(鹿島・鹿島小)
- 幹事 大野 恵史(金沢・城南中)
- 可長 俊太(金沢・長田中)
- 今本 満(白山・白嶺中)
- 中村 由恵(河北・津幡南中)